

現代ギリシア語と日本語における 「金持ちと貧乏」に関する諺の対照研究

浮田 三郎

両国民にとって、諺の世界に現れる「金持ちと貧乏」の意味は何であろうか。当然、今までどんな国でも貧乏人がいて金持ちがいたし、現在もそうである。資本主義の国ではもちろん社会主義の国でもそうであろう。

諺の世界では、金持ちの心、貧乏人の心、金持ちと貧乏人の関係、その状況がある時は厳しく、ある時は面白く表現している。

今回の発表では、現代ギリシア語と日本語における「金持ちと貧乏」に関する諺を対照考察し、そこに見られる表現の仕方と考え方の類似点と相違点、さらに、民族的、文化的な背景を考察したものを発表した。

ただ、今回は、日本の諺については十分な検討ができなかったので、主として現代ギリシア語の諺を考察することにし、日本語の諺の例は参考として参照することにした。

その内容を簡単に項目別に挙げてみると、以下のようである。

1 金持ち (1) 金持ちの様 (2) 金持ちの力 (3) 金持ちの心配 (4) 金持ちの良心

2 貧乏 (1) 貧乏の様子 (2) 貧乏のもと (3) 精神的苦痛 (4) 貧乏と運命 (5) 貧乏の高望み (6) 貧乏も良いもの (7) 貧乏は福のもと

一見して、貧乏に関する諺の方が金持ちに関する諺より多いことが分かる。

金持ち(金)の力に関する言及は、両国ともによく表現されている。日本では、金の力はよごれた欲との結び付きが強調されているが、これに比べて、ギリシアでは、金持ち(金)の力が良い結果に繋がることも強調されている。

なお、本研究発表したものに、先輩諸氏の意見などを参考にし、加筆修正したものを研究ノートとして、別に投稿したので参照していただきたい。